

水稲新品種「ニキサカエ」について

岡田正憲・今井隆典・西山 寿・本村弘美・甲斐俊二郎
(九州農業試験場)OKADA, M., IMAI, T., NISHIYAMA, H., MOTOMURA, H. and KAI, S.
A New Variety of Paddy Rice Plant, "Nikisakae"

水稲西海75号は昭和41年から鹿児島県で奨励品種に採用され、通称名を「ニキサカエ」として、普及に移されることになったので、育成経過ならびに特性その他の概要をのべて参考に供したい。本品種の育成に直接従事した職員は筆者等および藤井啓史である。

来歴ならびに育成経過

ニキサカエは昭和30年、農林省九州農業試験場でナカセンゴクを母、農林22号を父として人工交配を行ない、世代促進のため、同年冬から翌春にかけて同場指定試験地でF₁を養成し、F₂以降は再び九州農業試験場(筑後市)でF₈まで毎年晩期栽培により、F₉以降は普通栽培により、系統育種法を適用して育成されたものである。昭和36年F₇より「西海75号」の系統名で関係県に配布して地方的適否を検定した結果、41年5月(F₁₂)、水稲農林176号に登録され、通称名をニキサカエと命名された。

特性の概要

1. 形態的特性 晩期栽培ではナカセンゴクよりも長稈・長穂で農林22号の草状に似た穂重型の稈種である。稈の太さは中位で、脱粒性は難である。玄米は中形中粒で、品質食味ともかなり良好である。止葉はあまり直立しないが、熟色はよい。

2. 生態的特性 出穂・成熟期ともにナカセンゴク程度であり、九州北半では中生の晩に属する。倒伏には晩期栽培では稈があまり伸びないのでかなり強いが、普通期栽培では長稈にすぎためやや弱い。葉イモチ病、穂首イモチ病、シマハガレ病、モンガレ病にはいずれもかなり強く、耐病性は調和がとれている。生産力は晩期栽培では高く、かつ安定している。

適地および奨励品種採用県

昭和36年以降5年にわたって関係県に配布して地方的適否が検討されたが、この品種は鹿児島県を主体とする南九州の二期作地帯の第二期用に適応し、筑後平野ならびに八代平野のイ草跡の晩期栽培用としても

第1表 一般特性

形質	品種名 ニキサカエ	(比) ナカセンゴク		(比) 農林22号		(比) アキコガネ		(比) 農林18号	
		ニキサカエ	ナカセンゴク	農林22号	ニキサカエ	アキコガネ	農林18号		
熟期別	中生の晩	同左	早生	早生	早生	中生			
草穂型	穂重型	穂数型	穂重型	穂重型	穂重型	穂重型			
出穂期(月日)	9.19	9.19	9.12	9.17	9.18	9.22			
成熟期(月日)	11.16	11.17	11.9	10.27	10.28	11.1			
稈長(cm)	75	64	73	70	79	69			
穂長(cm)	17.8	16.8	18.0	19.4	20.2	19.9			
穂数(本)	15.0	14.0	12.0	13.5	11.7	10.9			
芒の有無	長短	稀・短	少・短	少・短	ム	ム			
稈の先色	褐色	褐色	褐色	白難	褐色	白難			
脱粒性	難	難	難	白難	白難	白易			
倒伏	難	易	強	中	ム	ム			
耐病性	葉イモチ病	やや強	中	やや強	ビ〜少	ビ〜中			
	穂首イモチ病	やや強	やや強	中	少〜中	少〜中			
	白ハガレ病	やや強	中	やや弱	少〜中	一			
	モンガレ病	やや強	中	一	ム	ム			
a 当玄米重(kg)	38.7	33.2	31.0	41.7	39.0	42.3			
玄米千粒重(g)	25.0	23.8	22.7	一	一	一			
玄米品質	中上	中下	中上	一	一	一			
調査地	九州農試(生予, 晩期)				鹿児島県加治木町				
調査年次	昭34~37(72.5~8.3植)				昭37~38(第2期)				

好適する。昭和41年度より鹿児島県で第二期用として、アキコガネ・農林18号・瑞豊にかわるものとして奨励品種に採用された。

栽培上の注意

1. 南九州での、この品種の田植の適期は7月末までであり、おそくとも8月5日までに終るようにすべきである。

2. 安全性はかなり整っているため、栽培は比較的容易である。穂重型であるため、倒伏防止に注意し、多肥密植になりすぎないようにすべきである。

3. 低温下の登熟能力はかなり高いが、南九州での出穂期の安全限界は9月25日頃として耕種条件を決定するのが安全である。

命名の由来

二期作用として栄え、生育良好、安全多収であることを意味する。